ホクコー スミチオン®乳剤

■種 類 名：ＭＥＰ乳剤
■有効成分：ＭＥＰ ---------- 50.0%
■化管法指定物質：フェニトロチオン又はＭＥＰ［第１種］ ---------- 50.0%
キシレン［第１種］ ---------- 19.0%
エチルベンゼン［第１種］ ---------- 19.0%

■登録番号：第4991号
■毒　　性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：1962.02.10
■性　　状：黄褐色可乳化油状液体
■有効年限：５年
■包　　装：100㎖×60本、500㎖×20本
■危 険 物：第二石油類危険等級Ⅲ、火気厳禁

【特長】

- 稲から野菜、果樹にいたるまで、極めて適用作物の広い汎用性殺虫剤。
- 低毒性の有機リン系殺虫剤で、殺虫スペクトラムが広く使いやすい。
- 空中散布や無人航空機散布にも適用があり用途が幅広い。

【適用内容】（2023 年 10 月末日現在）

作物名	適用害虫名	希釈倍数（倍）	使用液量（ﾘｯﾄﾙ/10a）	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ＭＥＰを含む農薬の総使用回数
稲	ニカメイチュウ第１世代	1000～2000	60～150	収穫21 日前まで	２回以内	散布	３回以内（種もみへの処理は１回以内、育苗箱散布は１回以内、本田では２回以内）
	ニカメイチュウ第２世代､サンカメイチュウ第３世代	800～1000					
	ヒメトビウンカ、カメムシ類、イネツトムシ、イネシンガレセンチュウ､イネドロオイムシ、アブラムシ類、アワヨトウ	1000					
	イネハモグリバエ	1000～2000					
	イネヒメハモグリバエ	2500					
	フタオビコヤガ	2000～4000					
	ニカメイチュウ、カメムシ類	300	25				
	イネシンガレセンチュウ	1000	―	は種前	１回	6～72 時間浸漬	
		100				専用の種子消毒機を用いて乾燥種籾重量の 3%の量の希釈液を種籾に吹付け処理又は塗沫処理	
	ニカメイチュウ､ヒメトビウンカ、カメムシ類、イネハモグリバエ､イネヒメハモグリバエ、フタオビコヤガ、イネツトムシ	30	3	収穫21 日前まで	２回以内	空中散布	
	ニカメイチュウ、カメムシ類	8	0.8			無人航空機による散布	
稲（箱育苗）	イネシンガレセンチュウ	1000	育苗箱（60×30×3cm､使用土壌約５ﾘｯﾄﾙ）１箱当り 500 ㎖	硬化期～移植前日	１回	育苗箱の上から均一に散布する。	
麦類（大麦､小麦を除く）	アブラムシ類、アワヨトウ、ムギキモグリバエ		60～150	収穫14 日前まで		散布	１回
	ムギアカタマバエ､ヒメトビウンカ	30	3			空中散布	
	ヒメトビウンカ	8	0.8			無人航空機による散布	
	アブラムシ類						
小麦		250	25	収穫７日前まで		散布	
	アブラムシ類、アワヨトウ、ムギキモグリバエ	1000	60～150				
	ムギアカタマバエ､ヒメトビウンカ	30	3			空中散布	
	ヒメトビウンカ	8	0.8				
大麦	アブラムシ類、アワヨトウ、ムギキモグリバエ	1000	60～150			散布	
	ムギアカタマバエ､ヒメトビウンカ	30	3			空中散布	
	ヒメトビウンカ	8	0.8				
	アブラムシ類					無人航空機による散布	

作物名	適用害虫名	希釈倍数（倍）	使用液量（ﾘｯﾄﾙ/10a）	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ＭＥＰを含む農薬の総使用回数
りんご	アブラムシ類	1000～2000	200～700	収穫 30 日前まで	３回以内	散布	３回以内
	ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、ハマキムシ類、ナシグンバイ、アメリカシロヒトリ	1000					
	クワコナカイガラムシ	1500					
なし（有袋栽培）	アブラムシ類	1000～2000		収穫 14 日前まで	６回以内		６回以内
	シンクイムシ類、ハマキムシ類、ナシグンバイ、ナシホソガ、ナシチビガ、カメムシ類、アメリカシロヒトリ	1000					
	クワコナカイガラムシ	1500					
なし（無袋栽培）	アブラムシ類	1000～2000		収穫 21 日前まで			
	シンクイムシ類、ハマキムシ類、ナシグンバイ、ナシホソガ、ナシチビガ、カメムシ類、アメリカシロヒトリ	1000					
	クワコナカイガラムシ	1500					
うめ	アブラムシ類	1000～2000		収穫 14 日前まで	２回以内		２回以内
	アメリカシロヒトリ、ハマキムシ類	1000					
	クビアカツヤカミキリ			成虫発生初期 但し、収穫 14 日前まで			
いちょう（種子）	コウモリガ ヒメボクトウ	100	0.3～3ﾘｯﾄﾙ/樹	収穫 60 日前まで	３回以内	樹幹散布	３回以内
ほうれんそう	ホウレンソウケナガコナダニ アブラムシ類	1000～2000	100～300	収穫 21 日前まで	２回以内	散布	２回以内
ごぼう	アブラムシ類 フキノメイガ			収穫 14 日前まで			
たまねぎ	アブラムシ類			収穫 21 日前まで			
	アザミウマ類	700～1000					
なす	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	1000～2000		収穫前日まで	５回以内		５回以内
きゅうり メロン しろうり	アブラムシ類						
	アザミウマ類	1000					
すいか	アブラムシ類	1000～2000		収穫 3 日前まで	６回以内		６回以内
	アザミウマ類	700～1000					
かぼちゃ	アブラムシ類	1000～2000		収穫 14 日前まで	３回以内		３回以内
	アザミウマ類	700～1000					
だいず	マメシンクイガ、ダイズサヤタマバエ、シロイチモジマダラメイガ、マメヒメサヤムシガ、カメムシ類	20	3	収穫 21 日前まで	４回以内	空中散布	４回以内
	シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、カメムシ類、マメヒメサヤムシガ、ウコンノメイガ、マメハンミョウ	1000	100～300			散布	
	アブラムシ類	1000～2000					
	マメシンクイガ	1000～1500					
	ダイズサヤタマバエ、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤムシガ、カメムシ類、ウコンノメイガ、マメシンクイガ	8	0.8			無人航空機による散布	

作物名	適用害虫名	希釈倍数（倍）	使用液量（ﾘｯﾄﾙ/10a）	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ＭＥＰを含む農薬の総使用回数
豆類（種実、ただし、だいず、あずき、いんげんまめ、そらまめを除く）	シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、カメムシ類、マメヒメサヤムシガ	1000	100～300	収穫 21 日前まで	４回以内	散布	４回以内
	アブラムシ類	1000～2000					
	マメシンクイガ	1000～1500					
いんげんまめ さやいんげん	シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、カメムシ類、マメヒメサヤムシガ、インゲンテントウ	1000		収穫 21 日前まで	４回以内		４回以内
	アブラムシ類	1000～2000					
	マメシンクイガ	1000～1500					
あずき	アズキノメイガ、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、カメムシ類、マメヒメサヤムシガ、マメホソクチゾウムシ	1000					
	アブラムシ類	250	25				
		1000～2000	100～300				
	マメシンクイガ	1000～1500					
そらまめ	アブラムシ類	1000		収穫 3 日前まで	３回以内		３回以内
豆類（未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、未成熟そらまめを除く）	シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、カメムシ類、マメヒメサヤムシガ	1000	100～300	収穫 21 日前まで	４回以内		４回以内
	アブラムシ類	1000～2000					
	マメシンクイガ	1000～1500					
えだまめ	シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、カメムシ類、マメヒメサヤムシガ、ウコンノメイガ	1000					
	アブラムシ類	1000～2000					
	マメシンクイガ	1000～1500					
未成熟 そらまめ	シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、カメムシ類、マメヒメサヤムシガ	1000		収穫 3 日前まで	３回以内		３回以内
	アブラムシ類	1000～2000					
	マメシンクイガ	1000～1500					
茶	コカクモンハマキ チャノホソガ	700～1000	200～400	摘採 21 日前まで	１回		１回
	ミノガ類	1000					
とうもろこし	アワノメイガ、カメムシ類 ツマジロクサヨトウ		100～300	収穫 7 日前まで	４回以内		４回以内

作物名	適用害虫名	希釈倍数（倍）	使用液量（ﾘｯﾄﾙ/10a）	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ＭＥＰを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	アブラムシ類	250	25	収穫 3 日前まで	6回以内	散布	6回以内
	アブラムシ類、テントウムシダマシ類	1000	100～300				
ねぎ	アブラムシ類	1000～2000		収穫 14 日前まで	2回以内		2回以内
	アザミウマ類	700～1000					
	ネギコガ	1000					
トマト	アブラムシ類、オオニジュウヤホシテントウ	2000		収穫前日まで			
せり	アブラムシ類			親株養成期 但し収穫 45 日前まで			
うど	アブラムシ類、センノカミキリ、ヒメシロコブゾウムシ、ウドノメイガ、ヨトウムシ	1000		根株養成期 但し収穫 150 日前まで	4回以内		4回以内
かんしょ	イモコガ、アブラムシ類 ヨツモンカメノコハムシ			収穫 7 日前まで	5回以内		5回以内
大粒種ぶどう	アブラムシ類、フタテンヒメヨコバイ、ブドウスカシバ、ブドウトリバ	1000～2000	200～700	収穫 21 日前まで	2回以内		4回以内（収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内）
	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチブトゾウムシ成虫	1000					
	クワコナカイガラムシ	1500					
小粒種ぶどう	アブラムシ類、フタテンヒメヨコバイ、ブドウスカシバ、ブドウトリバ	1000～2000		収穫 90 日前まで			
	ハマキムシ類、ブドウトラカミキリ、キンケクチブトゾウムシ成虫	1000					
	クワコナカイガラムシ	1500					
いちご	アブラムシ類	2000	100～300	収穫前日まで			2回以内
みかん		1000～2000	200～700	収穫 14 日前まで	5回以内		5回以内（樹幹処理は1回以内）
	ハマキムシ類、サンホーゼカイガラムシ、アザミウマ類、カメムシ類、カネタタキ、ミカンツボミタマバエ、ケシキスイ類、コアオハナムグリ、フラーバラゾウムシ、ミカンキジラミ、コナカイガラムシ類	1000					
	ケシキスイ類、コアオハナムグリ、アザミウマ類	10	5			無人航空機による散布	
かんきつ（みかんを除く）	アブラムシ類	1000～2000	200～700		3回以内	散布	3回以内（樹幹処理は1回以内）
	ハマキムシ類、サンホーゼカイガラムシ、アザミウマ類、カメムシ類、カネタタキ、ミカンツボミタマバエ、ケシキスイ類、コアオハナムグリ、フラーバラゾウムシ、ミカンキジラミ、コナカイガラムシ類	1000					
くり	モモノゴマダラノメイガ	8倍	3		4回以内	空中散布	4回以内（樹幹処理は1回以内）

作物名	適用害虫名	希釈倍数（倍）	使用液量（ﾘｯﾄﾙ/10a）	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ＭＥＰを含む農薬の総使用回数
もも	アブラムシ類、モモハモグリガ、ナシヒメシンクイ（心折防止）	1000～2000	200～700	収穫3日前まで	6回以内	散布	6回以内（樹幹処理は1回以内）
	ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、ハマキムシ類、クワシロカイガラムシ、カメムシ類	1000					
	クワコナカイガラムシ	1500					
	クビアカツヤカミキリ	1000		成虫発生初期 但し、収穫3日前まで			
おうとう	アブラムシ類	1000～2000		収穫14日前まで	2回以内		2回以内（樹幹処理及び灌注処理は合計1回以内）
	ハマキムシ類、ナシグンバイ、アメリカシロヒトリ	1000					
かき	ハマキムシ類、カキノヘタムシガ、カキホソガ、フジコナカイガラムシ、オオワタコナカイガラムシ、カメムシ類、イラガ類、アメリカシロヒトリ、ミノガ類若齢幼虫			収穫30日前まで	3回以内		3回以内（樹幹処理は2回以内）
こんにゃく	アブラムシ類		100～300	収穫14日前まで			3回以内
わらび	ナガゼンマイハバチ			収穫90日前まで	2回以内		2回以内
ばら	アブラムシ類	1000～2000		—	6回以内		6回以内
	フラーバラゾウムシ	1000					
きく	アブラムシ類	1000～2000					
	フラーバラゾウムシ、カメムシ類、ヨトウムシ類	1000					
つつじ類	グンバイムシ類、ハマキムシ類		200～700				
ｶｰﾈｰｼｮﾝ	アザミウマ類、クロウリハムシ		100～300				
しちとうい	イネクロカメムシ		60～150	発生初期	2回以内		2回以内
芝	コガネムシ類幼虫		3ﾘｯﾄﾙ/m²		6回以内		6回以内
	シバツトガ、スジキリヨトウ		0.3～2ﾘｯﾄﾙ/m²				
	シバオサゾウムシ		3ﾘｯﾄﾙ/m²	幼虫発生期			
宿根かすみそう	ハモグリバエ類		100～300	—			
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ	50	0.3～3ﾘｯﾄﾙ/樹	収穫21日前まで	3回以内	樹幹散布	3回以内
オリーブ（葉）				収穫120日前まで			
りんどう	ヒラズハナアザミウマ	1000	100～300	発生初期	6回以内	散布	6回以内
たらのき	センノカミキリ幼虫、ヒメシロコブゾウムシ	100	150～300	3～5月株養成期	2回以内	樹幹散布	2回以内
モロヘイヤ	マメコガネ、アザミウマ類、アブラムシ類、カメムシ類	1000	100～300	収穫14日前まで		散布	
らっきょう	アザミウマ類			収穫7日前まで			3回以内（植付前は1回以内、植付後は2回以内）
	アザミウマ類 ネギハモグリバエ	8	1.6			無人航空機による散布	
	ネダニ類	1000～2000	—	植付前	1回	30分間種球浸漬	

作物名	適用害虫名	希釈倍数（倍）	使用液量（ﾘｯﾄﾙ/10a）	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ＭＥＰを含む農薬の総使用回数
花き類･観葉植物	アオムシ、バッタ類、ハマキムシ類、アザミウマ類	1000	100～300	―	６回以内	散布	６回以内
樹木類	オオハリセンチュウ	500	―	移植前	１回	30 分間根部浸漬	
	アメリカシロヒトリ	500～1000	200～700	―	６回以内	散布	
	フラーバラゾウムシ、アブラムシ類、グンバイムシ類	1000					
アスター	ウリハムシ		100～300				
ソリダゴ	カメムシ類						
スターチス	コガネムシ類						
シネラリア	シンクイムシ類						
斑入りアマドコロ	コウモリガ						
ききょう	ヨトウムシ						
せんりょう	アザミウマ類、カメムシ類		200～700				
こでまり	カイガラムシ類						
しきみ	クスアナアキゾウムシ						
にしきぎ	ケムシ類						
しゃりんばいだいおうしょう	シンクイムシ類						
さかき	ハマキムシ類 サカキブチヒメヨコバイ						
さんごじゅ	ワタノメイガ						
さくら	クビアカツヤカミキリ			成虫発生初期			
飼料用とうもろこし	アブラムシ類	2000	100～300	収穫 30 日前まで	２回以内		２回以内
いね科牧草	アブラムシ類、ウンカ類、ゾウムシ類、ウリハムシモドキ、ヨコバイ類	1000～2000		収穫 14 日前まで			
	ムギダニ、アワヨトウ	1000					
まめ科牧草	アブラムシ類、ウンカ類、ゾウムシ類、ウリハムシモドキ、ヨコバイ類	1000～2000					
	ムギダニ	1000					
たばこ	ヨトウムシ		25～180	収穫 20 日前まで	１回		１回
桑	クワゾウムシ成虫	500～750	100～300	成虫発生期	６回以内		６回以内
げっきつ	ミカンキジラミ	1000	200～700	―			
セネガ	アブラムシ類	1000	100～300	収穫 14 日前まで	３回以内		３回以内

作物名	適用場所	適用害虫名	希釈倍数（倍）	使用液量（ﾘｯﾄﾙ/10a）	本剤の使用回数	使用方法	ＭＥＰを含む農薬の総使用回数
水田作物、畑作物(休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	1000	60～150	４回以内	散布	４回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用すること。ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用はさけること。
- ももの初期散布(５～６月)には薬害のでることがあるので注意すること。
- 稲(箱育苗)のイネシンガレセンチュウに使用する場合は下記の事項に注意すること。
  - ◆ 発芽期～緑化期の使用は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
  - ◆ 軟弱徒長苗、ムレ苗などの場合は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
  - ◆ 土壌が極端に湿潤な場合は使用しないこと。
- イネシンガレセンチュウの本田における防除に使用する場合、散布適期は出穂の頃であるので時期を失しないように散布すること。なお効果を高めるためには出穂始めとその一週間後の２回散布が望ましい。

- 水稲種子の吹き付け処理の場合は、専用の種子消毒機を使用し、乾燥種籾に均一に付着するよう所定薬液を吹き付けて乾燥すること。なお処理後、長期間保存する場合には、薬液処理を行ったことを明記し、間違いのないようにすること。
- 本剤を本田の水稲に対して希釈倍数３００倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- クワゾウムシに対しては成虫が桑樹に集まる４月下旬から６月頃に散布すること。成虫の活動は長期間にわたるので発生状況に応じて追加散布すること。
- かきのミノガ類に使用する場合、幼虫が大きくなると効果が劣るので若令幼虫期に時期を失しないように散布すること。
- 果樹のカメムシ類に対しては発生に応じて所定使用回数以内で繰り返し散布すること。
- 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- 本剤を空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
  - ◆ 散布薬液の飛散によって他の動植物(特にあぶらな科作物、桑、さといも、ｿﾙｺﾞ等の農作物、養蚕、養蜂)に影響を与えないよう散布区域の選定に注意すること。
  - ◆ 水源池、飲料用水、養殖池等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
- 本剤を空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合は更に次の注意を守ること。
  - ◆ 散布は各散布機種の散布基準に従って実施すること。
  - ◆ 少量散布(８倍液)の散布には、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
  - ◆ 無人航空機による散布にあっては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - ◆ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - ◆ 特定の農薬(混用可能が確認されているもの)を除いて原則として他の農薬との混用は行わないこと。
  - ◆ 散布終了後は次の事項を守ること。
    - ① 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に適切に処理すること。
    - ② 使用残りの薬液は必ず安全な場所に責任者をきめて保管すること。
    - ③ 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液ﾀﾝｸの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- なしの早生赤種、りんごの旭及びその近縁種には薬害のでることがあるので使用はさけること。
- 本剤を希釈倍数 250 倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を利用すること。
- 宿根かすみそうに使用する場合、開花期には薬害を生じることがあるので、この時期の使用はさけること。
- あぶらな科作物には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- ほうれんそうに使用する場合、幼苗期には薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- 牧草地に散布した場合は、散布直後の放牧はさけること。
- まめ科牧草のアルファルファゾウムシに使用する場合は、幼虫発生期～成虫発生初期に散布すること。なお、防除適期等については病害虫防除所職員等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- かんきつのミカンツボミタマバエ防除に使用する場合は、成虫の発生初期に樹冠部及び主幹部を中心とした樹の内部、樹冠下の地表面に散布するのが効果的である。
- 芝のコガネムシ類幼虫に使用する場合は、散布液が土壌中に十分しみ込むようジョロ等で１㎡当り３ﾘｯﾄﾙを散布すること。
- フラーバラゾウムシ及びミカンキジラミに使用する場合は、植物防疫事務所、病害虫防除所等関係機関の指導のもとに実施すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 蚕に対して影響があるので、給桑を予定している桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - ◆ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の果樹園等では使用をさけること。
  - ◆ 関係機関(都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。
- ❖ 本剤の解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びＰＡＭ製剤の投与が有効であると報告されている。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン･長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼･うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
  水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
  空中散布または無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
  散布後は水管理に注意すること。
  使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 危険物第４類、第２石油類に属するので火気には十分注意すること。
- ❖ 保管：火気をさけ、直射日光のあたらない低温な場所に密栓して保管すること。